

話題の
東西南北

初代フィリピン大統領となる
男を助命し、今度は助命されて
高島高安出身の神保信彦中佐 (上)

第2次世界大戦が終了して1年足らずの1946年(昭和21)7月、米国の植民地だったフィリピンは独立した。初代大統領に就任したのは、日本軍侵攻の中で、フィリピン人抵抗部隊の将軍だったマニエル・ロハス。ロハスは日本軍との戦いで捕虜となり、マニラの軍司令部から処刑命令が出されたが、その時にミンダナオ島にいた高島町高安出身の神保信彦中佐は、ロハスの人物識見を高く評価、将来のフィリピンを背負って立つ人物であり、処刑してはならないと判断、処刑したことにして隠匿しその生命を救った。数年後、今度は中国で戦犯扱いになっていた神保を大統領になったロハスが蒋介石に手紙を書き、その命を救うことになる。



ロハス氏(左)と神保信彦中佐
1943年(昭和18) マニラにて

救った男が初代フィリピン大統領に
1946年(昭和21年)7月4日、フィリピンの独立式典は雨の中で行われた。ロハス大統領は数十万人の群集の前に、トルーマン大統領の代理であるハンネガン郵政長官、マッカーサー元帥ら米国側の代表ら、そして15カ国の代表

が出席する中で、「フィリピン共和国の独立」を宣言し、米国の星条旗が下ろされ、代わりにフィリピン共和国の国旗が国歌に合せて掲揚された。

フィリピンは、1952年にスペインのマゼラン一行が来航して以来、同国が進出

1971年にはほぼ全土を支配した。カトリック化が進められ、イスラム教徒のモロ族を始め、各地で独立運動が盛んになった。19世紀末には、ホセ・リサルなどの啓蒙家が活躍したが、リサルが処刑されたことで、国民蜂起が

起り、これを契機に1898年、アメリカとスペインの間に戦争が勃発した。勝利したアメリカは、スペインからフィリピンの譲渡を受け、1899年、フィリピン共和国が成立した。その後、米比戦争の結果、米国領土になった。1941年〜44年、日

本軍はフィリピンを占領、戦後の1946年にロハス政権が誕生し、フィリピン共和国の独立へと進んだ。

母の影響を受けてクリスチャンに
神保信彦は、1900年(明治33年)1月1日に、山形県東置賜郡高島町高安の神保文治、さだとの間に生れた。兄弟は9人いた。先祖は米沢藩上杉家の家臣団の一員で、

父の文治は第五期士官候補生、歩兵少佐で予備役となった軍人家庭だった。熱心なクリスチャンだった母の影響で、信彦は幼年時に山形の日本キリスト教会の宣教師、米国人のクリーテ牧師によって洗礼を受けたとされる。その後、信彦は仙台の陸軍幼年学校を経て、陸軍士官学校を卒業、1921年(大正10)、山形歩兵三十二連隊に入隊、東京歩兵第一連隊を経て、1935

比国と生死をともしると脱出せず
社団法人日本リサル協会(発行人 神保信彦理事長)が1975(昭和50)5月1日に発行した「リサル・シリーズ第5集 東海の真珠」という冊子がある。この中に、神保がロハスを救助したときの状況が詳しく書かれている。本書には、いろいろな人が寄稿しているが、当事者である神保本人が発行人である

から、虚飾や誇張はないだろう。
神保は、1942年(昭和17年)当時、ミンダナオ(フィリピン南部の大島)の日本比島派遣軍第十独立守備隊司令官、生田寅雄少将の高級副官(中佐)だった。同年6月、神保の元に日本軍に降伏した約5万人の捕虜が送られてきたが、その中にマニエル・ロハス将軍がいた。ロハスは、1892年(明治25)1月1日生まれ。捕虜となる前には、カピス州知事、下院議長、財務長官などの要職を歴任している。将軍はアイゼンハワーの知己であり、マッカーサー下の幕僚長だった。日本軍の破竹の進撃に、マッカーサーはフィリピンから逃れ、ロハスにも同行を求めたが、ロハスは「自分は比国人だから比国と生死をともしする」と言

って、ゲリラ活動に入り捕虜となった。

話題の 東西南北

初代フィリピン大統領となる 男を助命し、今度は助命されて

高島高安出身の神保信彦中佐

(下)



中国河南作戦終了の頃(昭和19年)の神保信彦中佐

10日、神保が軍務打ち合わせのため、フィリピンから東京に帰ったとき

フィリピン国を背負う男と処刑命令に反対、そして隠匿 日本軍マニラ司令部は、ロハス処刑の密命を出したが、神保信彦中佐は国際公法上や日本軍の聖戦上からも受理しかねると考え、生田司令官に相談、司令官はすぐには同意しなかったが、神保の熱意に動かされて一切の処置を神保に一任した。神保はロハスを射殺したことにして密かに同島のある日本人商人の家に匿った。

の司令部に飛び、ロハスに関する秘密を自白して助命を願った。処刑の命令は本間雅晴司令官の意志ではなく、その部下の幕僚の専断ということが分り、本間司令官は神保の具申を認めてロハスの死刑を取消し、今後は軍政に活用するべく収容所より出して軟禁するよう変更した。これは神保にとっても命がけだった。軍の命令は動かし難いとすれば、ロハスのみならず、神保も銃殺されたかもしれない。これらの話は1943年(昭和18)4月

「路傍の石」で知られる作家の山本有三に話し、戦後の1946年(昭和21)8月号「新潮」に発表されたものである。 今度は神保を救った ロハス大統領 神保のこの行為に対して、マニラ司令部の幕僚や憲兵長は憎しみを抱き、神保は中国河北省最前線の部隊長に左遷されてしまう。山西省黄河河南作戦に従軍、終戦時は中国八路軍と対抗中、済南で捕虜になった。そして前任部隊の残虐行為の責任を問われて、戦犯捕虜の身となる。 戦後の1946年(昭和21)7月、フィリピン共和国は独立し、ロハスが建国初代大統領に当選した。その頃、神保の妻である隆子さんは山形市の



佐藤栄作元首相(右)、日本リサーチ協会会長・日本赤十字社社長東龍太郎氏(中)、日本リサーチ協会理事長神保信彦氏。=昭和45年4月28日(首相官邸で)

に疎開中で、神保が済南の拘置所に捕らえられていることがわかり、知人の山本有三に手紙を書き、山本が新聞に寄稿、それをフィリピン記者が本国へ伝え、ロハス大統領が知るところになる。 ロハス大統領は、特に日本占領下のマッカーサーに親書を送って神保中佐の行方を尋ねた。同年8月26日付で、今度はロハス大統領が中国の蔣介石総統に信書を送り、その内味は「今日なお私が生きな

は、東京世田谷の豪得寺に居を定め、その後、フィリピンとの貿易事業を営むことになった。 ロハス大統領は、1948年(昭和23)4月15日、演説中に心臓麻痺を起して56歳で死去した。ロハスが、神保と再び巡り合うことはなかった。 日本リサーチ協会を設立 ホセ・リサーチは、1888年(明治21年)2月28日、日本に亡命した医者で、滞在

からえていられるのは、神保中佐のお陰だ」と助命嘆願とも受け取れる内容で、その結果、拘置が解かれて神保は死刑も覚悟した中国の戦犯収容所から1947年(昭和22)7月に奇跡的に生還した。 帰国した神保は、東洋の豪傑に憧れた神保を定めて、その後、フィリピンとの貿易事業を営むことになった。 神保らは、1960年(昭和35年)、フィリピンを植民地支配から解放した英雄ホセ・リサーチの名前をとって社團法人日本リサーチ協会を設立、日比友好の架け橋として活動を始めた。1998年(平成10)6月には、リサーチの生誕100年を記念してリサーチが日本亡命中の寓居に近い日比谷公園の一角に新しい記念碑を建立している。

はわずか1カ月半だったが、欧州の事情を知るリサーチは、日本の国情を深く洞察して東洋平和の建設には、日比両国の提携が不可欠だと痛感した。米国に渡りしばらく滞在、その後フィリピンに帰国してからは、スペイン総督の抑圧下で母国独立のために活躍したのが、反宗教的、反愛国的扇動のことで流刑宣告され、さらに1896年、銃殺の刑に処されて35歳の生涯を終えた。 リサーチは、いまもフィリピン人から国民的英雄、建国の父と敬ばれる人物で、世界近世史は博士を「偉大なる東洋人」と称揚している。 神保らは、1960年(昭和35年)、フィリピンを植民地支配から解放した英雄ホセ・リサーチの名前をとって社團法人日本リサーチ協会を設立、日比友好の架け橋として活動を始めた。1998年(平成10)6月には、リサーチの生誕100年を記念してリサーチが日本亡命中の寓居に近い日比谷公園の一角に新しい記念碑を建立している。

二人の高潔な軍人を輩出した高島町 日本軍との交戦で乗艦が沈みスラバヤ沖の海上に漂流して生命の危機にあった英国海軍将兵422人を救い、「敵兵を救助せよ」(惠隆之介著)で紹介された高島町大笹生出身の工藤俊作中佐といい、この神保信彦中佐といい、高島町は戦争という異常で極限の状況の中にあっても、人道主義的な温かさを持つ人間性を育む土地柄であることを改めて考えさせられる。これらの二人に関わる世界的な出来事を通して、高島町とイギリス、そして高島町とフィリピンの友好が将来的に進展していくことを期待する。 「参考文献」リサーチ・シリーズ第5集 東海の真珠(社) 日本リサーチ協会、昭和の残照(鈴木兵三)、高安誌(高安長生会)、マッカーサーへの手紙 林茂雄(図書出版社)、20世紀全記録(講談社)、大辞典(講談社) [写真提供] 神保吉英氏